

武蔵野大学のフィールド・スタディーズ

～この5年間をジャンプ台として～

2020年3月5日

武蔵野大学 学外学修推進センター
センター長 山田均

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



目次

1. FSの目的と概要
2. 5年間の取組み
3. 教育の効果について
4. 課題と今後の展望

本学における学外学修の目的

すべての人や物ごとが支えあい、頼りあって、
「縁」によって存在していることに気づくこと。

縁によって成り立つ日々の暮らしに他者の
「恩」を感じること。

それぞれの学問を通じて、世界の幸せのために
「働く」心構えをつくること。

5年間の取り組み

平成27年度：28プログラム、1859人

* 自発自燃型、グローバル、地域貢献人材

平成28年度：37プログラム、1869人

* 4学期制の導入

平成29年度：59プログラム、1942人

* 学外学修推進センター設置

平成30年度：97プログラム、2075人

令和元年度：78プログラム、2100人

* プログラムを絞り、内容の充実をはかる



アンケートの実施について

(1) 学生へのアンケート

- ①成長実感→長期FS前・後の自分自身について、本学のDPに基づき、13項目を尋ねた。
- ②推奨度→後輩にFS履修を勧めるか尋ねた。

(2) 教員へのアンケート

学生がどう成長したかや、課題と感じていることについて、自由記述していただいた。

(3) 受入れ先へのアンケート

受入れ先にとって本学の学生を受入れることで、どのようなメリットと課題を感じているのか、自由記述していただいた

(1) 学生アンケート

① 長期FS成長実感アンケート3年間の結果

成長実感が

1番高かった項目は、**自発性**だった

- ・課題や問題を意識して取り組むことができる
- ・積極的に物事をまとめ、行動できる

2番目に高かった項目は、**表現・発想力**だった

- ・自分の考えを図や数字を用いて相手にプレゼンテーションすることができる

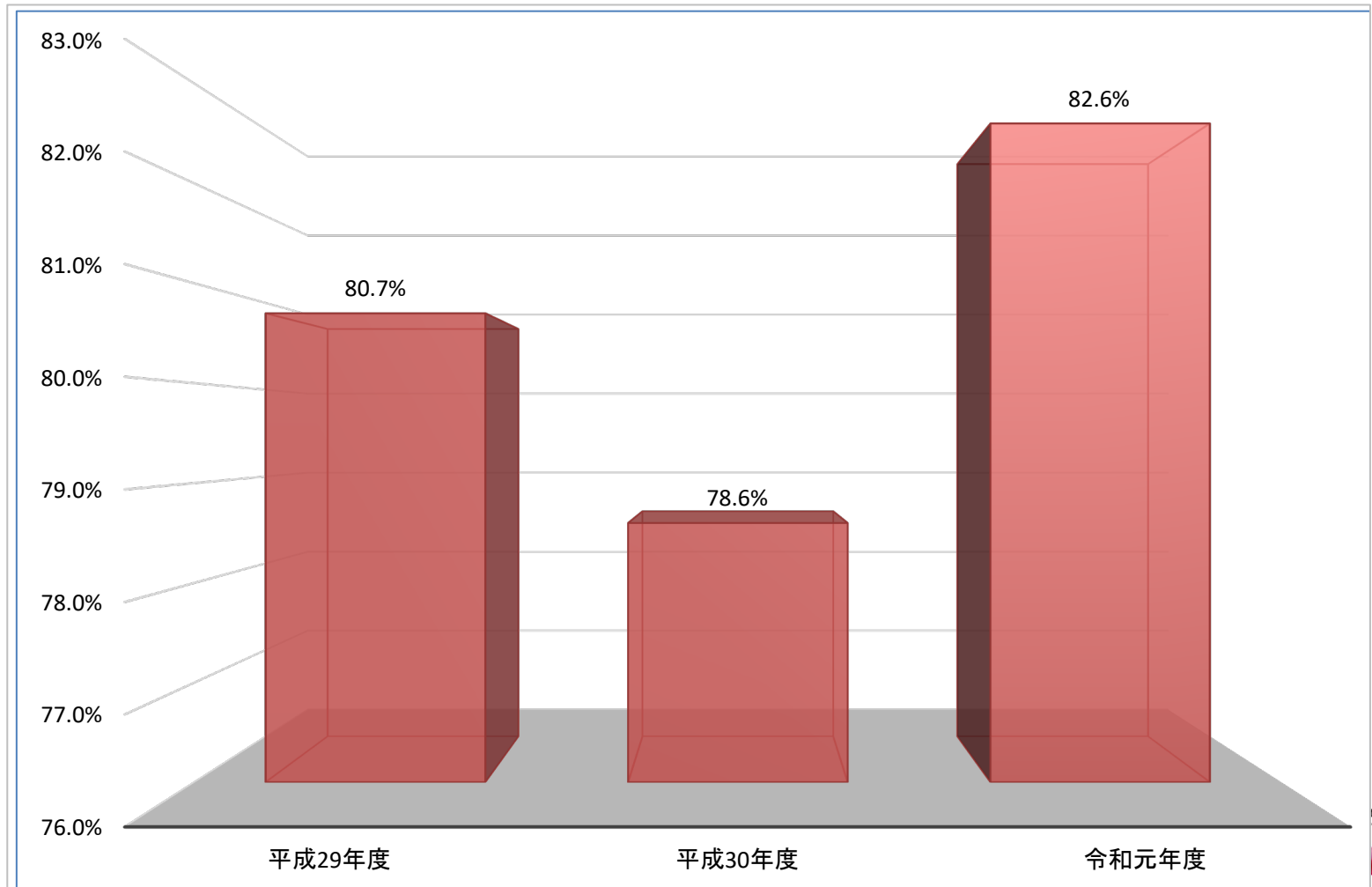
3番目に高かった項目は、**リーダーシップ**だった

- ・リーダーシップの能力がある

(1) 学生アンケート

② 推奨度

「後輩にFS履修を勧めるか？」というアンケートの3年間の結果



(2) 教員アンケート

「学生がどう成長したか」や、「課題と感じていること」

平成29年度

学修効果としては、社会性や協調性、積極性、責任感等が高まり、学生の成長が見られるという意見が多く、課題については、初年度ということで、教員と受入先と職員の三者でFSの目的が明確に共有できていない、教員の負担が大きいなどの意見が挙げられた。

平成30年度

学修効果については、学外学修の体験を通して社会課題と専門の学びが繋がったという意見が多く、課題については、事前事後授業を充実させる必要がある、学修動機が上がらず活動先で主体的に動けない学生がいるなどの意見が挙げられた。

令和元年

本学DP2の関心・態度・人格形成において学生の成長を感じたり、社会問題や自身の学びに強い関心を持ったりしているとの意見が多く、課題については、宿泊型の長期FSにおける共同生活の困難性や2学期における事前学修の日程調整の難しさ、学生の参加意識・態度・基本的マナーの格差等が挙げられた。

(3) 受入れ先アンケート

本学の学生を受入れることで、どのようなメリットと課題を感じているのか

平成29年度

活動先と学生との繋がりができ、活動先の目的はある程度達成出来たとの意見が多く、課題については、受入先が学生をマンパワーとして捉えていたり、就職直結のインターンシップとして受入れていたりするケースも見られた。

平成30年度

最終日に行う成果発表と提案では、大変良かった、参考になったとの意見が多く、課題については、互恵的連携を継続的に進めていくことの重要性や、正しい態度や姿勢、深い興味が見られない学生も多いこと等が挙げられた。

令和元年

満足した、今後も継続したいとの意見が多かった。課題については、受入先との事前調整や事前学修が不十分なプログラムについては、学生の意欲や態度が悪く、受入先の迷惑になった、負担になったという意見が多くあった。

課題と今後の展望



- 学生の費用負担
- 教職員の負担
- 受け入れ先の負担
- 学生の資質の問題

FSのめざすもの

- 1 専門の学びの土台をつくること
- 2 世界に問いかけ、世界から問いかけられること
- 3 武蔵野大学学生としてのしるしとなること

どのようなプログラムを目指すのか

- 1 モノの背後に他者の顔が見える
プログラム
- 2 他者の暮らしと幸せに思い至る
プログラム
- 3 お金のかからないプログラム

学外学修の可能性

学外学修は本学のめざす
「Happiness Creator」
を養成する重要な土台作りです。

慎重で地道な努力によってその可
能性を開花させていきたいと考え
ています。

本学のFSは

- 多数の学部で**全学的**な土台作り
- **2100人**という規模で**毎年**実施
- 日本中で**武蔵野大学**だけです
- 10か年まで**あと1年**です

世界は、 幸せか。

誰もが命をおびやかされることなく、平和に過ごせる世界にできないだろうか。

誰ひとりとして、涙している人のいない世界にできないだろうか。

生きているものぜんぶが、よりよくつながる世界にできないだろうか。

自分が生きているこの時間を、そんな夢の実現のために私たちは使いたい。

さあ、もっと感覚を研ぎ澄ませ、世界で起きていることを能動的に感じとろう。

感じ取った課題を解決するには何をすべきか。

世界の幸せのために、固定観念を越えて、知恵を開こう。

一人ではできないことならば、価値観や言葉の境も越え、

異なる力を響き合わせ、幸せをカタチにするために挑もう。

世界の幸せをカタチにする。

武蔵野大学

